

# 東北復興日記



157

コメの収穫時期を迎えた宮城県栗原市の田んぼでは、「ねじりほんによ」と呼ばれるイネの棒掛けが立ち並んでいます。写真。地面に棒を挿した「稲くい」に、刈り取ったイネの束を少しずつずらして掛けていく天日干しの手法です。ミノムシのような姿が愛らしく、同市の「ゆるキャラ」にもなっているねじりほんによ。

元神奈川新聞記者  
フリーライター  
柏木智帆さん



## イネ掛け「ほんによ」復活

ずらりと並ぶ棒掛けのイネが螺旋状にそろっている様子は、まるで芸術作品のよう。ユニークな秋の風物詩です。しかしコンバインでの収穫と機械乾燥が主流となった今、こうした伝統の天日干しは希少な風景となりました。この秋、市内に住む有機農家の齋藤政憲さん(68)は、収穫したコメの一部をねじりほんによで干しました。かつて、齋藤さんや周辺農家はほんによでイネを干していましたが、一九七〇年前後から急速に姿を消したといえます。今回、齋藤さんがねじりほんによを復活させようと思っ

たのは、初めて作付けした新品種のデビューに花を添えるため。東北の銘品種であるササニシキとひとめぼれを掛け合わせた「東北1994号」は、ササニシキのようなあっさりとした食感を残しながらも耐冷性のある期待の品種です。「粘りがどことなく、三百六十五日おなかいっぱいおこめを食べたい」とはん党にもってこいです」と齋藤さん。愛着を込めて1994にちなみ「いくまちゃん」と呼んでいます。市内の伊豆沼は国内最大のマガン越冬地。同市は二〇〇八年に岩手・宮城内陸地震、一年に東日本大震災、そし

て、ことし九月には関東・東北水害に見舞われ、いずれも死者が出るなどの被害を受けました。それでもマガンたちはことしも変わらず四千キ離れたシベリアから渡ってきました。日の出とともに大群が一斉に大空に羽ばたく光景は圧巻。食も自然環境も魅力たっぷりの栗原市です。

齋藤さんのいくまちゃんはウェブサイトで販売。十月下旬の出荷です。問い合わせはホームページ「和むすび」。アドレス＝<http://www.wa-musubi.jp/>。

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。